関西自然保護機構会誌 *26*（*2*）：*109－111*，*2004*

淀川汽水域の潮間帯生物の現状

大阪市立自然史博物館　山　西　良　平

The situation of intertidal organisms along the brackish area of the Yodo River. Ryohei Yamanishi（*Osaka Museum of Natural History, Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka 546-0034, Japan*）

淀川汽水域における潮間帯生物の分布と季節変化を追跡するために，筆者は右岸に７定点を設け，1988年４月から1989年５月までに月１回を原則とした付着生物の目視調査を12回実施し，出現種を記録した。その結果，11の主要種（マキヒトエグサ，スジアオノリ，アオノリ属？の１種，ホソアヤギヌ，コウロエンカワヒバリガイ，マガキ，カニヤドリカンザシゴカイ，タテジマフジツボ，ドロフジツボ，アメリカフジツボ，ヨーロッパフジツボ）について詳細な情報を得ることができた（山西，1990）。

また，山西・横山他（1991）は，上記の調査期間内に，同じ定点において岸からの同時採水による水質調査と付着生物の定量調査を６回実施し，生物の分布傾向との関連付けを試みた。水質は，水温，溶存酸素，塩分，ＣＯＤ，水素イオン濃度，クロロフィルａ，フェオ色素，懸濁物質の８項目について分析した。付着生物調査の結果，ウスバアオノリ，マガキ，タテジマフジツボは海側に，マキヒトエグサ，ホソアヤギヌ，ゴカイ（＝*Hediste* sp.），カニヤドリカンザシゴカイ，アメリカフジツボは淀川大堰側に，それぞれ分布域が偏っていた。このような傾向の存在は山西（1988，1990）においても示唆されていた。即ち，山西（1988）において内湾型・湾口型などとみなされた海産種が淀川汽水域に出現した場合は分布が海側に偏ることが多く，逆に沿岸域には出現しない汽水型とみなされている種は大堰側に偏ることが多いというものである。一方，水質の８項目の中で，定点間で値が漸次的に変化したのは塩分のみであった。増水時・渇水時あるいは満潮時・干潮時にかかわらず，塩分はほとんどの場合海から離れるに連れて漸減した。したがって，上記のような生物の分布傾向をもたらしている要因は塩分であると考えられる。とは言っても，この水質調査においても渇水時には大堰付近で塩分が20PSU近くに達することがあり，逆に増水時には河口でも２PSU前後まで下がることがあった。したがって同じ地点でも河川水の流況によって塩分は極端に変動し，しかもそのような状態が数十時間あるいは数日間継続することも少なくないと推測される。淀川のみならず一般の河川の汽水域はこのような塩分環境下に置かれているものであり，安定した汽水湖の場合のように平均的な値でその場所の塩分環境を表現することは困難である。にもかかわらず，塩分の勾配はつねに存在し，潮間帯生物の分布にはそれに対応した傾向の存在することが，これらの調査の結果によって明らかにされた。

次に，現在までに淀川汽水域において記録されている潮間帯生物とそれらの棲息場所および分布型を，最近の知見を加味して表１に示す。これらの内訳を分類群ごとにみると次のようになる。

表1．淀川汽水域の潮間帯生物一覧表.

門 （綱）	和名	学名	棲息場所	分布型(本文参照)
緑藻	ヒビミドロ	*Ulothrix flacca*	消波ブロック	内湾
	カプサアオノリ	*Capsosiphon fulvescens*	転石	内湾
	ウスバアオノリ	*Enteromorpha linza*	護岸	内湾
	ヒラアオノリ	*Enteromorpha compressa*	護岸	内湾
	スジアオノリ	*Enteromorpha prolifera*	護岸	汽水
	アオノリ属	*Enteromorpha* sp.	消波ブロック	汽水
	マキヒトエグサ	*Monostroma wittrockii*	護岸	汽水
	シオグサ属	*Cladophora* sp.	消波ブロック	不明
紅藻	アマノリ属	*Porphyra* sp.	転石	不明
	ウシケノリ属	*Goniotrichum* sp.	護岸	不明
	オバクサ	*Pterocladia capillacea*	消波ブロック	湾口
	ホソアヤギヌ	*Caloglossa ogasawaraensis*	護岸	汽水
	ユレモ属	*Oscillatoria* sp. 1	消波ブロック	不明
	ユレモ属	*Oscillatoria* sp. 2	消波ブロック	不明
刺胞動物	タテジマイソギンチャク	*Haliplanella luciae*	護岸	湾口
扁形動物	ヒラムシ類	Polyclada spp.	他の付着生物の間隙	不明
紐形動物	ヒモムシ類	Nemertinea spp.	他の付着生物の間隙	不明
軟体動物 （腹足綱）	イシマキガイ	*Clithon retropictus*	転石	汽水
	タマキビガイ	*Littorina brevicula*	護岸	湾口
	マルウズラタマキビガイ	*Littoraria adonis*	護岸	内湾
	カワザンショウガイ属	*Assiminea* sp.	護岸	汽水
	カワグチツボ	*Iravadia elegantula*	泥質干潟	汽水
（二枚貝綱）	ムラサキイガイ	*Mytilus galloprovincialis*	護岸	内湾
	コウロエンカワヒバリガイ	*Xenostrobus securis*	護岸	汽水
	マガキ	*Crassostrea gigas*	護岸	内湾
	ヤマトシジミ	*Corbula japonica*	砂泥中	汽水
	アサリ	*Ruditapes philippinarum*	砂泥中	内湾
	ウネナシトマヤガイ	*Trapezium lilatum*	マガキの殻の間隙	汽水
苔虫動物	シロアミメコケムシ？	*Canopeum reticulum*?	護岸	不明
環形動物 （多毛綱）	シリス科	*Typosyllis* sp.	他の付着生物の間隙	不明
	デンガクゴカイ	*Pseudonereis variegata*	マガキの殻の間隙	湾口
	カワゴカイ属	*Hediste* sp.	砂泥中	汽水
	アシナガゴカイ	*Neanthes succinea*	砂泥中	内湾
	ミズヒキゴカイ	*Cirriformia tentaculata*	砂泥中	内湾
	イトゴカイ科	*Notomastus* sp.	砂泥中	汽水
	スピオ科	*Polydora* sp.	他の付着生物の間隙	不明
	スピオ科	Spionidae gen. sp.	他の付着生物の間隙	不明
	カニヤドリカンザシゴカイ	*Ficopomatus enigmaticus*	護岸	汽水
節足動物 （甲殻綱）	ドロフジツボ	*Balanus kondakovi*	護岸	汽水
	タテジマフジツボ	*Balanus amphitrite*	護岸	内湾
	ヨーロッパフジツボ	*Balanus improvisus*	護岸およびイガイ類の殻上	内湾
	アメリカフジツボ	*Balanus eburneus*	護岸	汽水
	イソコツブムシ	*Gnorimosphaeroma rayi*	転石下	不明
	ヨツバコツブムシ	*Sphaeroma retrolaevis*	杭などに穿孔	不明
	フナムシ	*Ligia exotica*	護岸	広域
	キスイタナイス	*Sinelobus stanfordi*	他の付着生物の間隙	汽水
	モズミヨコエビ	*Ampithoe valida*	他の付着生物の間隙	不明
	トゲオヨコエビ属	*Eogammarus* sp.	転石下	不明
	ドロソコエビ属	*Grandidierella* sp.	他の付着生物の間隙	不明
	ヒゲツノメリタヨコエビ	*Melita setiflagella*	他の付着生物の間隙	不明
	フサゲモクズヨコエビ	*Hyale plumosa*	他の付着生物の間隙	不明
	ヒメハマトビムシ	*Platorchestia platensis*	他の付着生物の間隙	不明
	ドロクダムシ属	*Corophium voltator*	砂泥中	不明
	ユビナガホンヤドカリ	*Pagurus dubius*	転石周辺	汽水
	トゲノコギリガザミ	*Scylla tranquebarica*	砂泥地	汽水
	ガザミ	*Portunus trituberculatus*	砂泥地	内湾
	タイワンガザミ	*Portunus pelagicus*	砂泥地	内湾
	チチュウカイミドリガニ	*Carcinus aestuarii*	護岸	内湾
	スナガニ	*Ocypode stimpsoni*	砂地	内湾
	ハクセンシオマネキ	*Uca lactea lactea*	砂質干潟	汽水
	オサガニ	*Macrophthalmus abbreviatus*	砂泥質干潟	内湾
	ヤマトオサガニ	*Macrophthalmus japonicus*	泥質干潟	汽水
	チゴガニ	*Ilyoplax pusilla*	泥質干潟	汽水
	コメツキガニ	*Scopimera globosa*	砂質干潟	汽水
	オキナガレガニ	*Planes cyaneus*	流木などに付着	広域
	モクズガニ	*Eriocheir japonicus*	転石下	回遊
	ケフサイソガニ	*Hemigrapsus penicillatus*	護岸・転石下	汽水
	イソガニ	*Hemigrapsus sanguineus*	護岸・転石下	湾口
	ヒライソガニ属?	*Gaetice*? sp.	転石下	不明
	クロベンケイガニ	*Chiromantes dehaani*	ヨシ原とその周辺	汽水
	アカテガニ	*Chiromantes haematocheir*	干潟の周辺	汽水
	ベンケイガニ	*Sesarmops intermedium*	ヨシ原	汽水
	ユビアカベンケイガニ	*Parasesarma actic*	転石帯	汽水
	カクベンケイガニ	*Parasesaruma pictum*	砂地	広域
	クシテガニ	*Parasesarma plicatum*	転石帯	汽水
	フタバカクガニ	*Perisesarma bidens*	転石帯・石積	汽水
	アシハラガニ	*Helice tridens tridens*	砂泥質干潟	汽水
	ハマガニ	*Chasmagnatus convexus*	ヨシ原	汽水

出典：山下・山西（1997, 1999），山西（1998, 1991），山西・横山他（1991），和田（2003, 2004）.

緑藻	8
紅藻	6
刺胞動物	1
扁形動物	1以上
紐形動物	1以上
軟体動物	
腹足類	4
二枚貝類	6
触手動物	1
環形動物（多毛類）	9
節足動物（甲殻類）	40

総種数は77以上に達するが，甲殻類の比率が高く，中でも短尾類（カニ）が24種を占めている。これらのカニの多くは砂泥のたまった干潟環境に棲息する種類であり，淀川汽水域には右岸の西中島～十三，左岸の中津などに良好な干潟とヨシ原が残されていることが，豊富さの要因となっていると考えられる。一方，干潟を代表する巻貝であるウミニナ類がまったく見られず，埋在性の二枚貝もヤマトシジミにほとんど限られるなど，軟体動物相は貧弱である。

昭和20年代，淀川汽水域には約180ha存在したが，近年は約50haに減少しており，その原因は地盤沈下や河川改修であると考えられている（淀川環境委員会，2002）。現在，淀川環境委員会によって干潟の保全・復元・創出が提言され（同上），淀川河川事務所によって柴島や海老江において一部その試行がなされている。現存する西中島～十三などにおけるカニをはじめとする甲殻類の多様性は，淀川汽水域の干潟環境としてのポテンシャルを示唆するものであり，今後さまざまなタイプの干潟を復元・創造することによって，さらに多くの生物が生息可能になることが期待される。

引用文献

山下隆司・山西良平．1997．淀川汽水域での最近のカニの記録．Nature Study，43（1）：7-8.

山下隆司・山西良平．1999．淀川，男里川河口および西広海岸における注目すべきカニの記録．Nature Study，45（8）：87-89.

山西良平．1988．淀川汽水域の潮間帯生物相．Nature Study，34（1）：7-11.

山西良平．1990．淀川汽水域の潮間帯生物相(続)．Nature Study，36（3）：29-33.

山西良平．1991．淀川汽水域で新たに記録された動物2種－観察会「淀川汽水域の生物」から－．Nature Study，37（12）：143.

山西良平・横山寿・有山啓之・鍋島靖信・大谷道夫・石崎英男・野々上良甫・花井孝・伊與田奈美・石井久夫．1991．淀川汽水域における潮間帯付着生物の分布，季節変化および水質．自然史研究，2（7）：83-96.

淀川環境委員会．2002．自然豊かな淀川を目指して．淀川環境委員会，21pp.

和田太一．2003．淀川汽水域でカワグチツボを発見．Nature Study，49（4）：42.

和田太一．2004．淀川汽水域でベンケイガニを確認．Nature Study，50（2）：22.